

令和7年10月12日

茨城県立つくば看護専門学校
学校長 志真 泰夫 殿

学校関係者評価委員会
委員長 渡邊 葉月

学校関係者評価委員会報告

令和6年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 渡邊 葉月 (公益財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院 副看護部長)
- ② 森田 千映 (筑波大学附属病院 看護部 副看護部長)
- ③ 安田ひとみ (公益財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院 看護師長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和7年9月12日(会場 茨城県立つくば看護専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙 (学校関係者評価委員会報告)

I 各評価項目について

評価項目	評価内容
I 学校経営	中期事業計画に基づき、中期目標および単年度目標を策定している。教職員間で、目標達成状況の評価を行い、その結果を共有しながら改善につなげている。今後の方向性としては、県の方針をタイムリーに共有しつつ、「つくば看護専門学校」ならではの特色（カラー）を検討し明確化していくことが望ましい。この“学校のカラー”的確立は、数年を要する課題であるため、具体的な計画を立案し、段階的に実行していくことを期待したい。
II 教育課程 教育活動	今年度は「卒業時のあるべき姿」を基に学修を積み重ねた学生が初めて卒業し、新カリキュラムの成果を確認している。新設科目については、学生アンケートを実施し、授業内容や教育方法に関する評価を行っている。また、教員個々の教育力向上を目的として、教員会議を活用し、授業改善に向けた提案や実践報告を共有している。その結果、領域間の関連性が強まり、学びの一貫性が高まったことにより、学生にとって効果的な授業展開が図られていると評価できる。さらに、インシデントの発生事例を学生と共有し、再発防止に向けた教育的取り組みを行なっている。今後は、その結果インシデントがどのように変化したか評価し、対策の妥当性を検討できるとより良い。
III 入学・ 卒業対策	入学者が増加するなかでも、国家試験合格率は100%を維持し、退学者も少数に留まった。これは、教職員による学修・生活両面での手厚い支援の成果と考える。また、県内就職率は高水準で推移しており、キャリア支援の方針と実践は適切である。
IV 学生生活 への支援	新たな卒業後支援として「ホームカミングデイ」を設け、卒業生への継続的な支援を実施している。教員は年2回の個別面談を行い、必要な支援について検討・対応している。あわせて保護者懇談会も開催し、在学中から卒業後まで切れ目のない支援体制を整備した。さらに、ボランティア活動等の自主活動については、学生への情報提供を積極的に行っており、学生生活への支援は有効である。
V 管理運営 財政	予算および年間事業計画を策定し、適正な執行・進行管理を行っている。課題として、危機管理体制の定期見直し、施設老朽化への対応、自然災害を想定した備えの具体化が必要である。運営は概ね適切であり、課題の改善を図り一層の充実を期待する。
VI 施設設備	教育内容に適合した教材の購入は計画的に進められており、学習環境の質向上に寄与している。一方で、施設・設備の老朽化対策ならびにLGBTQ等の多様性に配慮したバリアフリー化については、今後の具体化が望まれる。また、図書館利用者は減少傾向にあり、利活用促進策の検討が課題である。
VII 教職員の 育成	教員研修後にリフレクションを実施し、今後に向けた課題の明確化を図っている。教員の入れ替わりがあり、授業運営の継続性確保が課題となつたが、業務マニュアルの整備および実習ペア制の導入により、授業進行の標準化を図った。今後は、教員が成長を実感できる体系的な教育プログラムを組織的に検討・整備することで、教育力のさらなる向上と定着に期待したい。
VIII	学校運営および評価結果をホームページ上で公表しており、情報公開は適切に実施さ

広報	れている。昨年度の評価を踏まえ、インスタグラム等の SNS を活用した広報活動を強化している。ホームページの更新および内容の充実については、今後の改善が望まれる。
IX 地域との 連携	コロナ禍で停滞していた地域活動については、再開に向けた計画を策定し、段階的に実行へ移すことが望まれる。地域ニーズの把握と連携体制の再構築を通じて、継続可能な活動を行うことを期待したい。